

2018年度 主要私立大志願状況(2月17日現在集計)

河合塾

2018/2/19

私立大一般入試では2月入試が終盤を迎え、後期(3月)入試の出願がスタートしている。主要大の1期入試(2月実施)の志願者数が出揃った現時点の志願者集計(2月17日現在)から今春入試を分析する。

■一般・センター方式ともに志願者は大きく増加

【表1】は現時点で志願者数が判明している全国105大学の状況をまとめたものである。今年度の一般入試の志願者数は全体で前年比107%と大きく増加した。方式別にみても一般・センター方式ともに志願者増となった。国公立大のメイン入試である前期日程の志願者数が前年並みとなったのとは対照的である。

私立大では、一度の出願で複数学部・学科へ志願できる、複数方式に同時出願すると受験料を割引くといった一人あたりの志願数が増える仕組みが広がっている。また、2017年度入試で合格者数が絞り込まれたことから、出願校数を増やす受験生も少なくなかったとみられ、これが私立大の延べ志願者数の増加につながっている。

【表1】私立大 大学グループ別志願状況

学校区分	一般方式			センター利用方式			合計			
	17年度	18年度	前年比	17年度	18年度	前年比	17年度	18年度	前年比	
主要105大学 計	1,712,009	1,794,733	105%	778,640	859,401	110%	2,490,649	2,654,134	107%	
主な内訳	早慶上理	208,186	212,106	102%	33,141	34,950	105%	241,327	247,056	102%
	MARCH	292,159	308,375	106%	136,366	156,020	114%	428,525	464,395	108%
	日東駒専	161,544	173,567	107%	109,604	118,385	108%	271,148	291,952	108%
	成成明國武	63,888	68,407	107%	37,466	41,087	110%	101,354	109,494	108%
	首都圏理系10大学	140,343	136,355	97%	84,703	96,979	114%	225,046	233,334	104%
	首都圏女子13大学	36,254	38,435	106%	24,268	25,445	105%	60,522	63,880	106%
	関関同立	182,193	194,269	107%	78,094	80,471	103%	260,287	274,740	106%
	産近甲龍	176,764	185,169	105%	49,725	61,563	124%	226,489	246,732	109%
	上記以外の大学	450,678	478,050	106%	225,273	244,501	109%	675,951	722,551	107%

※数値は2/17現在、出願期間中の方式および2期入試は集計対象外(大学グループ)

早慶上理: 早稲田・慶應義塾・上智・東京理科 MARCH: 明治・青山学院・立教・中央・法政 成成明國武: 成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵

日東駒専: 日本・東洋・駒澤・専修 首都圏理系10大学: 千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京工科・東京電機・東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科

首都圏女子13大学: 大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京女子・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院

関関同立: 関西・関西学院・同志社・立命館 産近甲龍: 京都産業・近畿・甲南・龍谷

■都市部大規模大の人気はますます上昇

今春も現時点で志願者数がすでに10万人を超えている大学が6大学ある。東洋大、日本大、法政大、明治大、早稲田大、近畿大の6大学で、なかでも近畿大は13万人を超えている。いずれも昨春より志願者が増加しており、都市部の大規模大の人気はますます上昇している。

大学グループ別の志願状況では、「早慶上理」は前年比102%となった。早稲田大、上智大、東京理科大で志願者が増加したものの、慶應義塾大では減少した。グループ全体ではセンター方式で志願者の増加率が高いが、これは東京理科大の影響で、早稲田大ではセンター方式の志願者数はやや減となった。

「MARCH」は前年比108%と「早慶上理」より高い増加率となった。5大学全てで志願者が増加したが、なかでも昨春グループ内で唯一志願者が減少した中央大は前年比120%、人数にして約1万5千人増となった。また、立教大でも志願者数は前年から約9千人増と大幅に増加した。

「日東駒専」も前年比108%とこちらも大幅増となった。いずれの大学も志願者が増加したが、なかでも東洋大(前年比117%)の志願者増が目につく。東洋大では昨年も志願者が前年から約2割増となっており、2年連続の大幅な志願者増となった。東洋大は今春、入試方式の拡大、入試実施回数の拡大などの入試変更を実施、これが志願者増につながった。また、日本大ではN方式の受験料を値下げした。このため、N方式の志願者は2割増となった。

「首都圏理系10大学」の志願者も前年比104%と増加した。ただし、これは東京都市大の志願者が前年比158%と大幅に増加したため、これを除くとグループの志願者数は前年並みとなる。東京都市大では、今春、一般方式で試験日を増やすなど併願できる学科数が増加しており、志願者数の増加はその影響である。「成成明國武」では志願者前年比は108%となった。國學院大、成蹊大では志願者が減少したが、成城大、武蔵大、明治学院大で増加した。

西に目を向けると、「関関同立」は前年比106%となった。「早慶上理」同様、私立大全体よりはやや低い増加率となった。関西学院大では前年並みとなった一方、関西大は前年から1割以上増加と、大学により状況は異なる。

「産近甲龍」は前年比 109%となった。前述の近畿大で志願者が増加したほか、京都産業大でも前年から約2割増となった。京都産業大はコンピュータ理工学部を改組して新設する情報理工学部の志願者が前年から倍増した。

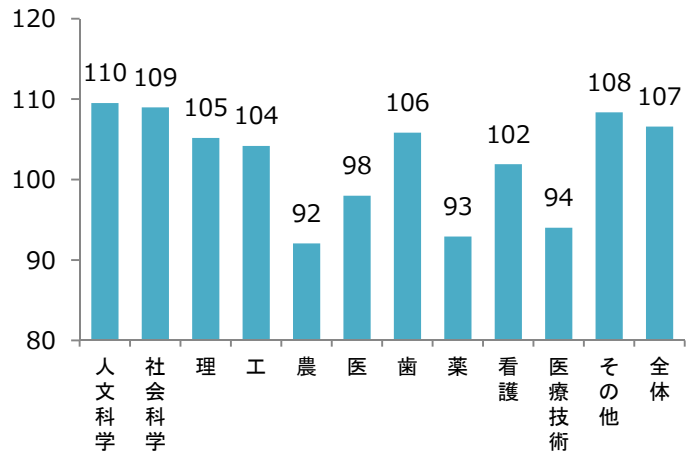
■学部系統別一文高理低が鮮明、医療系も不人気

【グラフ2】は学部系統別の志願動向である。私立大全体の前年比 107%を基準に各系統の動向を確認すると、文高理低が鮮明となったほか医療系の不人気も目立つ。

文系では多くの分野で志願者が前年から1割以上増加した。ただし、教育、国際では志願者数は前年並み、法では前年比 104%と低めの増加率にとどまった。国際は昨年志願者が大きく増加した分野だが、今春は主要大で国際系の新設がないことも志願者数が伸びなかった要因であろう。

理系では理で前年比 105%、工で同 104%、農で同 92%となった。理、工では志願者が増加したが、私立大全体と比べれば増加率は低くなっている。また、農の志願者数は前年を下回り、不人気が鮮明である。医療系では医、薬、医療技術の志願者が減少した。大学生の就職状況が好調であるなか、資格系の学部・学科は全般に人気は低くなっている。

【グラフ2】私立大 学部系統別志願状況



※数値は志願者前年比 (%)
 ※2/17判明分で、出願期間中の方式および2期入試は除いて比較

■各地区主要大学の志願状況

次に全国の主要大学の志願状況（判明分）をみてる。【表3】はいずれも2月17日までに判明した1期（2月実施）入試の集計である。

[青山学院大学]

大学全体の志願者数は前年比 103%、4年連続で志願者が増加しており、過去10年でみても最多となった。方式別にみると、一般方式で前年比 104%、センター方式で同 99%と、増加は一般方式によるものである。

学部別にみると、前年の反動が出ているのが特徴である。志願者が増加したのは、文、国際政治経済、法、経営学部である。とくに昨年の志願者数が前年から1割以上減少していた法学部では3割増となった。また、文、国際政治経済学部は今春より全学部日程で学部内の複数学科の併願が可能となっており、これが志願者増の要因となったとみる。

一方、志願者が減少したのは、地球社会共生、理工、社会情報学部などである。なかでも昨年志願者が倍増していた地球社会共生学部では、今春は前年比 70%と志願者が大きく減少した。学部設置から4年目となるが、志願者数に著しい隔年現象がみられる。

[慶應義塾大学]

大学全体の志願者数は前年比 97%、4年ぶりの志願者減となった。年間の模試を通じて人気がない状態が続いていたが、入試でも志願者が増えることはなかった。学部別にみても、志願者が大きく減少している学部はないものの、いずれも減少しており、大学として人気を感じられない状態である。私立大全体では人気となっている経済学部（前年比 96%）、商学部（同 97%）も例外ではない。また、医、薬学部は4年連続、看護医療学部は2年連続の志願者減となっており、医療系の人気も低くなっている。なお、理工学部の志願者は前年比 98%だが、学門により状況は異なる。情報系の学科に進学できる学門5では志願者が増加したほか、学門1・2では前年並みの志願者数となっている。一方、学門3・4で志願者の減少が目立つ。

[上智大学]

志願者数は前年比 107%、3年ぶりに志願者が3万人を超えた。学部別にみると、神、総合人間科学部を除き、いずれも増加した。

方式別の志願者数をみると学科別で前年比 99%、TEAP利用型で同 147%と、増加はTEAP利用型によるものである。TEAP利用型は昨年までの2年をかけて全学部が2技能利用から4技能利用に移行した。負担増が受験生に敬遠され、TEAP利用型の志願者数は2年連続で減少していた。今春TEAP利用型の志願者が大きく増加したのは、受験者が低学年のうちから4技能への準備ができたこと、学科別に比べ、TEAP利用型の倍率、入試難易度が低い学科が多いことなどが挙げられる。

学科別入試では、文、経済学部など前年の志願者が大きく増加していた学部で減少した。一方、志願者が増加したのは、法、外国語、理工学部などである。このうち外国語学部は昨年も志願者が大きく増加していたが、今春も前年比 107%と引き続き人気である。とくに英語、ドイツ語学科で志願者の増加が目立った。

[中央大学]

志願者数は大学全体で前年比 120%と大きく増加した。昨年は前年比 98%と MARCH で唯一志願者が減少したため、反動も大きく出た形だ。方式別にみると一般方式で前年比 115%、センター方式で同 127%と、センター方式の増加率が高い。

学部別にみても、いずれの学部も志願者は前年から 1 割以上増加した。とくに増加が目立ったのは文、総合政策、商、理工学部である。理工学部では、5 年ぶりの志願者増となった。理工学部では今春からセンター併用方式で 2 学科まで併願可能となった。受験料の併願割引も実施したため、この方式の志願者数は前年比 148%と大きく増加した。また、法学部でも一般入試で法律学科と国際企業関係法学科を併願する場合、受験料が割引となった。このため国際企業関係法学科の一般入試では志願者数は前年比 177%と、こちらも大きく増加した。

さらに志願者の増加が目立ったのは、英語外部検定試験利用入試である。大学全体の志願者数は 615 人→1,392 人（前年比 226%）と倍増した。

[東京理科大学]

大学全体の志願者数は前年比 106%。前年から約 3 千人増となった。方式別では一般方式の志願者数が前年比 103%、センター方式で同 113%と、センター方式で大きく増加した。

一般方式ではグローバル方式を全学（理学部二部除く）に拡大、1 千 4 百人を超える志願者を集めた。なお、既存の B 方式では前年並みの志願者数となっており、一般方式の志願者増はグローバル方式の導入によるものである。センター方式では A 方式で前年比 116%、C 方式で同 100%となった。C 方式は昨年の志願者とその前年の 7 割程度まで落ち込んでいたが、志願者数は戻らなかった。C 方式では全学部ともセンター試験は英・国の 2 教

【表3】主要私立大 大学別志願状況

大学	一般方式			センター利用方式			合計		
	17年度	18年度	前年比	17年度	18年度	前年比	17年度	18年度	前年比
北星学園	1,918	1,989	104%	834	769	92%	2,752	2,758	100%
北海学園	4,109	4,154	101%	1,817	1,873	103%	5,926	6,027	102%
東北学院	5,736	5,748	100%	3,235	3,177	98%	8,971	8,925	99%
千葉工業	43,666	39,608	91%	25,129	27,456	109%	68,795	67,064	97%
青山学院	47,751	49,855	104%	13,215	13,050	99%	60,966	62,905	103%
学習院	18,828	20,447	109%	-	-	-	18,828	20,447	109%
北里	11,853	11,069	93%	4,199	4,411	105%	16,052	15,480	96%
慶應義塾	44,845	43,301	97%	-	-	-	44,845	43,301	97%
工学院	12,082	10,872	90%	6,530	6,409	98%	18,612	17,281	93%
國學院	14,402	14,109	98%	7,220	7,073	98%	21,622	21,182	98%
国際基督教	1,570	1,448	92%	-	-	-	1,570	1,448	92%
国士館	9,614	9,723	101%	7,545	9,554	127%	17,159	19,277	112%
駒澤	22,676	23,309	103%	16,528	19,200	116%	39,204	42,509	108%
芝浦工業	21,387	22,404	105%	14,467	16,541	114%	35,854	38,945	109%
上智	29,277	31,181	107%	-	-	-	29,277	31,181	107%
成蹊	14,081	13,075	93%	9,337	8,008	86%	23,418	21,083	90%
成城	9,776	11,569	118%	6,000	9,404	157%	15,776	20,973	133%
専修	23,881	25,405	106%	17,271	16,771	97%	41,152	42,176	102%
大東文化	8,764	11,257	128%	8,913	9,888	111%	17,677	21,145	120%
中央	41,414	47,593	115%	31,377	39,820	127%	72,791	87,413	120%
津田塾	2,230	2,112	95%	3,091	2,919	94%	5,321	5,031	95%
東海	24,771	25,282	102%	16,403	19,154	117%	41,174	44,436	108%
東京女子	4,313	5,661	131%	4,365	4,674	107%	8,678	10,335	119%
東京電機	11,031	10,548	96%	7,713	7,932	103%	18,744	18,480	99%
東京都市	6,717	9,031	134%	8,007	14,264	178%	14,724	23,295	158%
東京農業	22,045	20,323	92%	9,367	8,731	93%	31,412	29,054	92%
東京理科	35,899	36,869	103%	16,323	18,496	113%	52,222	55,365	106%
東洋	42,253	48,264	114%	43,304	52,019	120%	85,557	100,283	117%
日本	72,734	76,589	105%	32,501	30,395	94%	105,235	106,984	102%
日本女子	6,519	6,047	93%	4,520	4,550	101%	11,039	10,597	96%
法政	80,701	81,758	101%	38,505	40,741	106%	119,206	122,499	103%
武蔵	10,665	12,245	115%	5,558	5,223	94%	16,223	17,468	108%
明治	80,441	85,038	106%	32,466	34,747	107%	112,907	119,785	106%
明治学院	14,964	17,409	116%	9,351	11,379	122%	24,315	28,788	118%
立教	41,852	44,131	105%	20,803	27,662	133%	62,655	71,793	115%
早稲田	98,165	100,755	103%	16,818	16,454	98%	114,983	117,209	102%
愛知	12,379	13,208	107%	6,001	5,931	99%	18,380	19,139	104%
中京	17,868	21,492	120%	9,547	9,362	98%	27,415	30,854	113%
南山	16,432	16,801	102%	8,954	7,959	89%	25,386	24,760	98%
名城	21,971	21,473	98%	15,805	16,231	103%	37,776	37,704	100%
京都産業	26,246	30,151	115%	12,242	15,367	126%	38,488	45,518	118%
同志社	45,395	48,367	107%	10,737	10,199	95%	56,132	58,566	104%
立命館	50,844	53,595	105%	37,135	36,947	99%	87,979	90,542	103%
龍谷	36,874	38,406	104%	7,820	8,956	115%	44,694	47,362	106%
関西	57,634	64,029	111%	17,343	20,529	118%	74,977	84,558	113%
近畿	102,176	104,844	103%	23,873	30,637	128%	126,049	135,481	107%
関西学院	28,320	28,278	100%	12,879	12,796	99%	41,199	41,074	100%
甲南	11,468	11,768	103%	5,790	6,603	114%	17,258	18,371	106%
広島修道	5,279	4,922	93%	3,698	3,658	99%	8,977	8,580	96%
松山	5,422	5,778	107%	2,140	1,662	78%	7,562	7,440	98%
西南学院	13,651	13,205	97%	7,304	7,676	105%	20,955	20,881	100%
福岡	33,104	32,268	97%	14,520	15,393	106%	47,624	47,661	100%

※数値は2/17現在、出願期間中の方式および2期入試は集計対象外

科を利用する。昨年に続き、センター試験国語の平均点は低く、C方式の出願を取りやめた受験生が多かったものと思われる。

学部別では、経営学部で数学の範囲に変更があった。経営学科B方式では数学を選択した場合に数学Ⅲが必要ではなくなった。しかし、もともと国語での受験が可能だったこともあってか、志願者数に影響はなかった。一方、ビジネスエコノミクス学科のグローバル方式は数学Ⅲまでが必要となった。こちらは数学が必須であるため、志願者数は半減した。

[法政大学]

大学全体の志願者は前年比 103%と増加した。昨年、過去 10 年で最多となっていた志願者数はさらに増加した。今春の志願者数は 12 万人を超え、現時点で首都圏の大学で最多となっている。方式別にみると、一般方式で前年比 101%、センター方式で同 106%と、いずれも志願者が増加した。

学部別にみても志願者が増加した学部が目立つ。とくに増加率が高かったのは、社会（前年比 133%）、経営（同 112%）、情報科学（同 123%）の各学部である。このうち情報科学部は過去 2 年も増加率が 1 割以上で推移しており、人気となっている。

志願者が減少している学部は、国際文化、法、生命科学部などである。いずれも昨年志願者数が増加しており、とくに増加率が高かった学部では今春の減少率が高い傾向にある。

一般方式の英語外部試験利用入試は人間環境、スポーツ健康で他の学部より志願倍率が高くなっている。なかでも人間環境学部では 5 名の募集人員に 877 人の志願者が集まった。この 2 学部は他の文系学部 비해、出願要件となる英語外部試験のスコア・取得級が低く、出願しやすいことが要因であろう。

[明治大学]

大学全体の志願者数は前年比 106%と増加、4 年連続の志願者増である。明治大では今春約 1 千名の入学定員増となる。一般入試でも募集人員は約 700 名増加する。大規模な入学定員増も志願者増の要因の一つだろう。方式別にみても一般方式で前年比 106%、センター方式で同 107%と同様の傾向となった。

学部別の志願状況を確認すると、多くの学部で志願者が増加するなか、総合数理学部では前年比 98%となった。総合数理学部は前年大きく志願者が増加しており、受験生に警戒された形だ。志願者が大きく増加しているのは、文、経営、商学部など文系の学部である。文、商学部は前年から約 1 割、経営学部では約 2 割の増加となっている。文学部では心理社会学科に哲学専攻を新設した。「哲学」自体、受験生に人気の分野とは言い難く、志願者数は既存の 2 専攻と比べ少なくなっている。

[立教大学]

大学全体の志願者数は前年比 115%と大きく増加した。MARCHのグループ内では中央大の次に増加率が高くなった。方式別では一般方式で前年比 105%、センター方式で同 133%と、センター方式での増加率が高い。近年、立教大では志願者数の隔年現象がみられ、増減を繰り返していた。今年は減少年にあたったが、志願者は前年から 9 千人以上増加した。

学部別にみても、文（前年比 124%）、現代心理（同 122%）、観光（同 146%）など、志願者が大きく増加した学部が目立った。一方、異文化コミュニケーション、経済学部では志願者数が前年を下回った。なお、異文化コミュニケーション学部では 6 年連続の志願者減となった。近年、国際系学部・学科の新設が相次いでいることも減少の要因の一つだろう。

英語外部試験が出願要件となる全学部日程グローバル方式は実施 3 年目を迎えた。志願者数は 374 人→1,397 人→2,675 人と年々大きく増加している。異文化コミュニケーション以外の学部では、例えば英検なら 2 級と、要求される取得級・スコアはそれほど高くないことも志願者増の要因だろう。英語外部試験を利用する入試は他大学でも拡がりを見せており、利用を考える受験生が増えている様子をうかがわせる。

[早稲田大学]

大学全体の志願者数は前年比 102%、3 年連続の増加となった。昨年に続き、志願者数は 11 万人を超えた。方式別にみると、一般方式で前年比 103%、センター方式で同 98%と、増加は一般方式によるものである。

学部別の状況を見ると、文系各学部を中心に志願者が増加した学部が目立つ。文、法学部では前年から 1 割以上増加した。法学部は 3 年ぶりに志願者数が 7 千人を超えた。前年までの志願者減の反動に加え、一般方式では今春入試から地歴公民の代わりにセンター試験の「数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B」が利用できるようになったことも影響していそう。センター数学を利用することで、地歴公民科目で早稲田大用の対策が不要となり、難関国立大との併願者にとって出願しやすくなったのではないかと。教育学部では 5 年連続の志願者増となった。ただし、学科・専修により状況は異なり、志願者が増加したのは、英語英文学科、社会科学科の地理歴史専修などである。ただし、今春から名称変更する社会科学科公共市民学専修では、志願者数は 2,775 人→2,473 人へ減少した。

一方、志願者が減少した学部は、国際教養、政治経済、理工 3 学部である。このうち国際教養学部では、志願

者は前年比 78%、3 年連続の志願者減となる。今春は一般方式で英語リスニングを廃止、英語外部試験の取得級・スコアを加点する方法に変更したが、志願者減に歯止めはかからなかった。政治経済学部は前年から 1 割減となった。政治学科で志願者の減少が目立つほか、人気系統の経済学科でも志願者が減少、不人気となっている。

理工 3 学部はいずれも志願者が減少した。先進理工学部は 3 年連続の志願者減となっている。なお、3 学部の志願者数を比較すると、先進理工学部が最多となった。

【同志社大学】

大学全体の志願者数は前年比 104%、3 年連続の志願者増となった。過去 10 年でみても最多となっている。方式別でみると一般方式で前年比 107%、センター方式で同 95%と、対照的な動向となった。センター方式は昨年志願者が大きく増加しており、敬遠されたようである。

学部別にみても志願者の増加が目立つが、とくに増加率が高かったのは心理、政策、経済、生命医科学、文化情報学部などである。経済学部の志願者は 2 年連続で前年から約 2 割増となっており、強い人気を示した。また、政策、経済学部は過去 10 年で最多の志願者数となった。

志願者が減少したのは、理工、スポーツ健康科学部などである。理工学部は前年から 1 割減となった。ただし、学科により状況は異なり、インテリジェント情報工、情報システムデザイン、電気工学科では志願者は増加した一方、機械システム工、機能分子・生命化学、環境システム学科などで減少した。

【立命館大学】

大学全体の志願者数は前年比 103%となった。方式別にみると、一般方式で前年比 105%、センター方式で同 99%となった。センター方式では 2 年連続の志願者減である。今春は食マネジメント学部が新設され、2,901 人の志願者が集まった。これを除くと大学全体の志願者は昨年を下回る。

学部別にみると、政策科学、情報理工、映像学部で志願者が大きく増加した。いずれも昨年志願者が減少した学部である。このうち政策科学部は隔年現象がみられる学部だが、この 3 年はとくに顕著で、今春の志願者は前年から 5 割増となった。情報理工学部では、理工、生命科学部の志願者数が前年を下回るなか、1 期入試の志願者数は 5 千人を超えており、過去 10 年で最多となった。

志願者が減少したのは、産業社会、経営、理工学部などである。産業社会、経営学部の昨年の志願者は過去 10 年で最多となっていた。そのため反動も大きく、今春の志願者は産業社会（前年比 90%）、経営（同 85%）と大きく減少した。設置 3 年目を迎えた総合心理学部の志願者数は前年比 98%にとどまった。昨年の志願者は前年の 7 割まで落ち込んでいたが、その反動は見られなかった。

【関西大学】

大学全体の志願者数は前年比 113%と大きく増加した。前年から 1 万人近く増加しており、増加数は関関同立グループの中で最多となった。方式別にみても一般方式で前年比 111%、センター方式で同 118%と、いずれも大幅に増加した。

学部別にみても、総合情報学部を除いたすべての学部で前年の志願者数を上回った。なかでも文、社会、法、政策創造、経済、化学生命工、人間健康学部では、志願者が前年から 1 割以上増加した。政策創造学部では昨年も志願者が前年から 1 割以上増加していたが、今春はさらに 5 割増となった。同じく文学部は 2 年連続、経済学部は 3 年連続の志願者増となった。化学生命工学部は前年志願者が大きく減少しており、その反動が出た形だ。

関西大では今春入試で新方式の導入や既存方式の科目負担減など、入試の変更が目立った。政策創造、経済、人間健康学部では新方式を導入した。また、環境都市工、システム理工学部ではセンター中期の語学力重視方式のセンター試験必要教科・科目数が 5 科目から 4 または 3 科目になった。システム理工学部の語学力重視方式では志願者が倍増しており、新方式の導入や科目変更が志願者増の一因になっている。

【関西学院大学】

大学全体の志願者は前年比 100%、4 年ぶりの志願者増となっていた昨年の志願者数を維持した形だ。方式別でも一般方式で前年比 100%、センター方式で同 99%と、同様の傾向となっている。

学部別には志願者数の増減がみられる。志願者が増加したのは人間福祉、法、総合政策、経済、商学部で、社会科学系の学部となっている。なお、経済学部では今春から一般方式に理系型を導入した。理系型では数学Ⅲ、理科などが必須で、志願者数は従来からの文系型の 10 分の 1 以下にとどまった。

志願者が減少した学部は、文、教育、社会、国際、理工学部などで、いずれも昨年志願者が増加していた学部だ。昨年の志願者増加率が高い学部ほど、今春の減少率が高くなった。